

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ E 組

使用教科書：（東京書籍 地理総合）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

単元名・指導項目・内容	単元の具体的な指導目標	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界	①地軸の傾きや自転・公転による影響を理解する。また、地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考える。 ②地図にはさまざまな種類が存在すること、地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考える。 ③日本の位置と領域について理解する。また、他地的経済水域について理解し、その重要性について考える。	【知識・技能】 ・現代世界の地域構成を示した地図の見方、日本と世界の結び付きなどを理解している。また、様々な地理情報について、地図や地理情報システムを用い、情報収集やまとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界からみた日本、国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・地図やGISと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	4
第1編 第2章 地図や地理情報システムの役割	①生活にさまざまな地図が利用されていることを理解する。多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考える。地図を取り上げ、その役割について考える。 ②地形図から読み取れること、地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察する。 ③主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けのかを考察する。 ④地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解する。GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考える。		○	○	○	4
定期考査			○	○		1
第1編 第3章 資料から読み取る現代世界 第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解	①交通手段の多様性とその長所・短所について理解し、交通手段の発達による生活の変化を考える。 ②通信情報技術（ICT）の発達について理解し、通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。 ③国境をこえる人々の動きについて理解する。どのような理由で人々がどこからどこへ移動するかを考える。 ④世界の貿易とさまざまな地域経済圏について理解する。 ⑤国際分業と産業の変化について考え、国家間のさまざまな結び付きとその役割について理解する。 ⑥多極化する世界の変化について考える。		○	○	○	10
定期考査			○	○	○	1
第2編第1章 2節 生活文化と自然環境①地形 3節 生活文化と自然環境②気候 4節 生活文化と産業	①地域によって文化が異なる理由について、文化は持続することもある一方で、変容することもあることを理解する。 ②世界の宗教分布、宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解する。 ③山地におけるさまざまな暮らしの工夫、自然的、文化的なめぐみに気づき、その利用について理解する。 ④河川がつくる平野の小地形、宅地化による伝統的な土地利用の変化が、どのような影響をもたらしているかを理解する。 ⑤海岸の地形とその利用、海岸の地形が自然的、人為的要因によって変化していることを理解する。 ⑥大気の大循環によって生じる気圧帯について、気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。 ⑦各気候帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解し、土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。 ⑧自然環境の面から、食生活の地域差について、社会環境の面から農業形態の地域差について理解する。食文化に多様性が生じる理由について理解する。 ⑨工業立地について、また労働集約的な工業の立地が移動する理由、新興工業国と先進国との工業に違いが生じる理由、商業の立地の違いについて理解する。 ⑩通信産業の発展による世界の変化、産業の情報化について理解し、情報化社会における働き方について考える。インターネットの普及により、商業にどのような変化が生じたのかを理解する。	【知識・技能】 ・世界の人の生活文化を基に、それらは地理的環境から影響を受けたり、与えたりして多様性をもつことや、環境の変化で変容することを理解するとともに、自他の文化を尊重し、国際理解を重要視する必要性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・世界の人の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1

